

みんなが住み続けられるまちへ ～市長選挙に松下玲子さんが立候補を表明～

10月1日投票の武蔵野市長選挙に、元都議会議員の松下玲子さんが無所属で立候補することを、8月18日記者会見で表明しました。

市民団体「住み続けられるまち武蔵野へ!市民の会」が擁立するもので、松下さんは市民の要請にこたえ民進党を離党して、無所属の市民候補として選挙に臨むことを明らかにしました。記者会見した松下さんは、「市民が主役」を掲げた邑上市政の実績を継承しつつ、今の課題に挑戦することを訴えました。とりわけ子ども子育て応援宣言を大きく掲げ「子育てするメリットがあるまちにしたい」「若い世代、困難を抱える子どもや高齢者の不安にもっと光をあてる」と抱負を語りました。



記者会見で抱負を語る
松下玲子さん。

邑上市政 3期 12年の実績

邑上守正市長は、今期で引退することを明らかにしていますが、3期12年の任期の中で、借金を減らし基金を積み増して健全財政に市財政を転換させたこと、特定の団体・個人の利害に偏らない公平公正な市政を貫いたこと、中学校給食の実現や保育園の増設など子ども施策を前進させたこと、平和の日制定など平和事業の新たな展開があったことなど、多くの実績を残しました。脱原発首長会議に参加し、平和への発信を続けてきた市長を私も誇りに思ってきました。

これからの市政に求められていること

一方で、昨年吉祥寺東町のましゅまろ保育園の事業者撤退という事態がおき、保育園待機児ゼロと保育の質の確保は、待ったなしの課題と考えています。また、医療や介護などの国の制度後退の中で自治体独自の政策をレベルアップすること、検討の始まっている自治基本条例を住民投票制度も含めて制定し市民参加をさらに進めることなどがこれからの市政に求められていると思います。

「市民の会」は「邑上市長も全力で松下さんを応援することを表明され、民進党・共産党・武蔵野生活者ネットワーク・市議会会派『空』所属の市議会議員も応援する意向」と述べました。皆さまもどうぞ関心をお寄せください。

都議会議員選挙は、松下玲子さんを応援しました

●定数1人の武蔵野市選挙区。7月2日投票の都議会選挙で、私は前都議会議員松下玲子さんを応援しました。

投票率が54.28%と前回より10.3%上がる激戦でした。結果は次点で当選がかないませんでした。



山本太郎参議院議員(自由党共同代表)も応援に駆けつけた。

鈴木くにかず 27,515票 (都民ファーストの会)

松下 玲子 22,493票 (民進党)

島崎 よしじ 14,443票 (自由民主党)

●私は、4年間で2万軒のお宅を訪問した松下さんの行動力は都議にふさわしいと考えていましたが、政策に関しては、6月9日、以下の点で民進党武蔵野市支部と合意し、支援を決めました。

①共謀罪の廃案

②憲法改悪を許さず、憲法の理念を活かす

③築地市場の豊洲への移転に反対し、築地での再整備を行う

今回松下さんは、市民と幅広い勢力の共同候補として選挙に取り組みました。市議会では、民進党・共産党・生活者ネットワーク・無所属の議員が応援しました。

●森友・加計問題の疑惑に蓋をし、共謀罪を強行採決した安倍政権と自民党に国民の怒りは大きく、自民党が惨敗し、怒りの受け皿として小池知事が率いる都民ファーストの会が選択されました。私は選挙中「知事の顔色をうかがう議員が増えても改革は進みません」と訴えてきました。これからも都政の動向に注目し、政治を変えるための市民の行動を応援し広げていきたいと思います。

ボランティアとカンパを募っています!

◆岡山県倉敷市生まれ。◆京都大学文学部卒業。

◆1995年より武蔵野市議会議員3期連続当選。

◆2007年選挙で惜敗。政治活動を続けるとともに、知的障がい者の外出介助のガイドヘルパー

としても働く。◆2011・2015年市議会選挙で当選。◆2017年度は、建設委員会(委員長)・

議会運営委員会所属。都市計画審議会委員を務める。◆原発事故避難者のサポートを行う「避難の

協同センター」正会員。



住まいの貧困への対応の強化を! 9000戸近い民間賃貸空き部屋の利用促進を

- 住まいは人権であり福祉の基盤ですが、日本では、住宅対策と社会保障との連携は必ずしも十分ではありません。



家賃が高く空き家の目立つUR住宅

さる4月19日、改正住宅セイフティーネット法が国会で可決・成立しました。この法律は、高齢者・障害者・低所得者など、現在の賃貸住宅市場において、住宅確保に困難を抱える人たちを「住宅確保要配慮者」と位置づけ、都道府県ごとに空き家の登録制度を新設して、オーナーが空き家を活用することを促し、「住宅確保要配慮者」の入居促進につなげたいとするものです。方向性は評価できますが、空き家のオーナーへの月最大4万円の家賃補助が、法律の条文にもりこまれず予算措置にとどまるなどの課題もあります。

そこで、6月議会の一般質問で現状を伺い、提案をしました。

●少ない公的住宅・多数の民間空き部屋

市長の答弁で明らかになった現状は以下の通りです。

市内の全世帯に占める市営住宅・都営住宅・UR住宅など公的賃貸住宅は、平成28年度で**4519戸で全世帯の6%**でしかありません。応募できる戸数も直近の年度で**市営住宅2戸・都営住宅12戸**という少なさです。

一方、民間賃貸住宅の空き部屋の件数は、平成25年度の推計値で、**8920戸（一戸建て220戸・共同住宅等8700戸）**と全世帯の1割以上になっています。

●今後の取り組みへの提案

①民間賃貸の空き部屋の利用促進

②UR賃貸の家賃設定に関し、低収入住民も入居できるよう、収入に応じたものに変更するよう関係機関への働きかけ

UR賃貸住宅には空きがかなりあるが、家賃設定は民間と同等。公的住宅の役割を果たせる家賃設定へ改革が必要。

③原発事故自主避難者の4月以降の居住の実態調査と支援

④住宅喪失不特定雇用労働者（ネットカフェ難民）への対応

武蔵野プレイス西側の道路拡幅計画の見直し ～市長が「市民意見を踏まえて検討」を表明～

●武蔵野プレイスの西側の道路は、1994年に告示された都市計画道路3・4・27号線の整備区間とされてきました。この計画は、現在の道路を16メートルに拡幅し、隣接寺院の墓地の一部も道路とするものであり、プレイス西側にある木もすべて保全されるとは言えません。土地の買収にも多額の費用がかかります。

現在、この道路は車の通行も少なく、ケヤキ・イチョウ・桜などによる季節折々の景観に恵まれた場所として市民から愛されています。また、この道路拡幅計画を見直し、なるべく現況を維持することが、景観保護の点でも、建設コスト削減の点でも望ましいのではないかとの要望が寄せられています。

●そこで、6月議会の一般質問で、現計画を、寺院の土地を購入せず木を保全する計画へと変更することを求めたところ、

市長からは、計画時と環境が大きく変わったことをあげて「整備プランの検討に際しては市民意見など踏まえながら行っていきたい」との答弁があり、前向きなものと受け止めました。今後、東京都との協議をしっかり進めていくことを期待しています。

武蔵野プレイス西側の通り
景観にすぐれ、歩行者も安心

来年度の予算編成について要望書を提出しました

7月19日、来年度（2018年度）予算に関する市長との懇談会が開かれ、要望書を提出しました。下記に抜粋を掲載します。

- PPP* 活用に関して、議会の議決を必要とする条件を明らかにする
- *PPPはPublic Private Partnership パブリックプライベートパートナーシップの略で、公民連携手法と言われ、公有地などを民間企業に提供することを促進するものです。今年3月の予算委員会でも、PPP手法による武蔵境駅北口の市有地活用が大きな議論になりました。

- 施設一体型小中一貫校の提案は保護者・地域住民・教員の声を聞き、計画の撤回を
- 保育園待機児ゼロと保育の質の確保・保育園間の格差是正をめざす取り組み
- ・吉祥寺南町市有地の保育園建設に向けた体制強化と市民への迅速な広報
- ・兄弟同じ保育園入園への対応を進める
- ・新規事業者の保育園経営参入に関する市のサポートの強化（近隣説明・保育の質の向上など）
- ・認証保育所と認可保育園の保育料格差の是正
- 桜堤地域の子育て施設の増設を旧桜堤小学校で保育園・学童クラブ・あそべえなど地域で必要な子育て関連施設を旧桜堤小学校に設置する
- 障害者の人権を守り、住まいの安定を
- 原発事故による放射能汚染対策・避難者支援の継続

子ども連れの市議会傍聴者に対する託児サービスが 来年度の予算要望項目（議会費）に盛り込まれました！

来年度予算への要望として、子ども連れの市議会傍聴者に対する託児サービス実施に關わる経費の要望を行政に提案することが決まりました。

この件は2年前から、会派として、市民に開かれた議会をつくるために要望をしていたのですが、この度正式に代表者会議の決定を経て議会全体の要望となりました。

提案が予算に計上され議決されれば、来年度から、各定期会3日まで、傍聴希望者が予約制で生徒6か月から小学校入学前の子さんを市役所7階の部屋で専門のスタッフによってケアすることになります。ご注目ください。



FB やツイッターでも情報発信&受信中。

市政相談いつでもお気軽に